

長久手市の公民連携の現状について



H29.6.23 長久手市財政課

なぜ公民連携を進めるのか

【PPP/PFI導入のねらい】

- ①安くて優れた品質の公共サービスの提供を実現すること。
- ②公共の財政負担の削減・平準化、民間のノウハウや資金等の活用、ビジネス機会の創出

なぜ公民連携を進めるのか

【PPP/PFI導入により期待される効果】

①民間事業者の経営上のノウハウや技術的能力を活用できるため、低廉かつ良質な公共サービスが提供される。

②公共サービスの提供における行政の関わり方の改革が期待できる。

※官民の適切な役割分担に基づく新たな官民パートナーシップが形成されていくことが期待される。

③民間の事業機会を創出することを通じ、経済の活性化に資することができる。

※地方公共団体等が行ってきた事業を民間事業者にゆだねることから、民間に対して新たな事業機会をもたらす。

なぜ公民連携を進めるのか

【PPP/PFI導入のデメリット】

- ①PFI事業では、民間に幅広い業務を任せることになるので、行政がこれまで以上に民間業務状況を把握して、管理や指導をしなければ、公共サービスの品質の低下を招く可能性がある。同時に、職員の経験やノウハウを失う可能性がある。
- ②業務を任せる企業を選ぶ際には、価格だけでなく企業の持つノウハウや事業計画の内容についても評価しなければならないため、これまでと比べて事前の手續に要する業務が増え、時間も必要となる。

なぜ公民連携を進めるのか

国では...

公共施設等の整備等の方針を検討するにあたって、多様なPPP/PFI手法の導入が適切かどうかを、自ら公共施設等の整備等を行う従来型手法に優先して検討する仕組みを導入する仕組みが必要。



内閣府は、平成27年12月、平成28年度末までに、国や全ての20万人以上の地方公共団体等において、公共施設等の整備等にあたり、PPP/PFIの活用を優先的に検討する仕組みが構築（優先的検討規程又はガイドラインの策定）されるよう要請した。

長久手市の公民連携の現状について

【本市の現状と課題】

現時点では、導入にあたっての検証が十分ではないため、先進事例の研究や研修への参加等で情報収集している。



本市では、平成28年度に公共施設等総合管理計画を策定した。

この計画の中に、市の公共施設等の現状や将来の修繕や更新計画のほか、公共施設等の整備方針、公民連携・広域連携の導入などについて盛り込んだ。

つまり、ようやくスタートラインに立ったところである。

長久手市の公民連携の現状について

公共施設等総合管理計画「公共施設等の管理に関する基本的な考え方」

| | |
|--|--|
| 基本方針1 | 誰もが安全で安心して利用できる公共施設等を目指します。 |
| 耐震化や、老朽化対応、バリアフリー化の推進等により、誰もが安全で安心して利用できる公共施設等を目指します。 | |
| 基本方針2 | 公共施設の更新時に機能の複合化を前提に検討するとともに、 公民連携の促進 や、広域連携などにより、トータルコストを縮減します。 |
| 長期間のライフサイクルコストを考慮した施設の維持管理を行うとともに、公共施設の更新時に機能の必要性を勘案のうえ、複合化を前提に検討するほか、 公民連携等による施設管理 、広域連携による施設運用を行うなど、新たな手法を検討することにより、トータルコストの縮減を目指します。 | |
| 基本方針3 | 将来計画に基づき、財政負担を平準化し、計画的に基金を積み立てます。 |
| 公共施設等の将来にわたる更新等に必要とされる金額を推計し、長寿命化等により財政負担を平準化するとともに、財源不足が生じないよう、基金の積立てや起債の発行などを計画的に行います。 | |

長久手市の公民連携の現状について

【そもそも、公民連携（PPP／PFI）は、目的ではなく、手法である。】

しかし、公民連携という手法は、今後一般的になる。
そこで、まずは、勉強会などで先進事例等を学んだり、各種セミナー等に参加し、知識を蓄える。

まずは、小さな取組から始め、経験とノウハウを蓄積させる。

長久手市の公民連携の現状について

【先進事例研究・手法の勉強をしながらノウハウを蓄積】

- ・内閣府のアドバイザー派遣制度の活用
- ・先進地の事例研究・視察研修
- ・公共施設を総合的にマネジメントする専門部署の設置
- ・インセンティブ型予算編成
※公民連携等財源確保の取組事業には、優先的に予算配分
- ・産官学金が集まり、具体的な検討を行う「プラットフォーム」を設ける

本格導入へ



【導入の検討】

- ・スポーツ施設整備事業
- ・市役所等公共施設整備事業